

特集 視床と高次脳機能

企画 本誌編集委員会

特集の意図

視床は、多くの感覚情報の処理を行い、また運動の中継核として随意運動をコントロールすることで知られている。加えて、皮質連合野とも情報をやり取りしており、高次脳機能への関与も明らかとなっている。本特集では、まず視床の解剖学的知識を振り返り、損傷例の知見を中心に注意、記憶、言語、情動の4つの高次脳機能と視床との関わりを概観する。

特集の構成

1. 視床の構造（井手 智，他） 視床の解剖学的構造を図示しながら解説する。まず視床が大部分を占める間脳の構造を示した後、狭義の「視床」として感覚や運動、高次脳機能に関与する背側視床について、その構造、役割と各領域の病巣が引き起こす臨床症状を概説する。また、広義の視床に含まれる視床上部や腹側視床、自律神経系や内分泌系の中核として機能する視床下部についても言及する。

2. 視床と注意（所 和彦，他） ヒトは膨大な情報量の中で情報を選択しながら最適な行動を行う。これが「注意」であり、その主役となる視床との関連を解説する。視覚性注意については外側膝状体や視床網様核、視床枕が関与するなど、どの領域がどのように注意機能に関与するのかを紹介するとともに、視床出血の病巣と注意障害の程度の関連性についても症例をもとに述べる。

3. 記憶の神経解剖学的ネットワークと健忘——視床からの視点（西尾慶之，他） 複数の解剖構造によって構成される神経ネットワークにより記憶機能が支えられているという考え方が主流となっている。健忘の症例をこの考え方に照らした「健忘の二重/多重回路説」の観点から、そのネットワークの中で視床がどのような機能を果たしているのかを解説する。

4. 左視床と失語（中野明子，他） 視床損傷による失語、すなわち視床失語はその機序として優位側の損傷で生じるという報告が多い。また、類似する失語症状があるものの障害様相や重症度は病状、病巣により異なるという特徴を持つ。こうした視床と言語、特に失語との関連を、症例をもとに解説する。

5. 視床と情動（平山和美） 視床は情動を引き起こす脳部位の1つである。視床と情動とがどのように関係しているのかを、ヒトの視床損傷例、特に情動との関係が比較的明らかになっている視床背内側核、視床下部、視床枕の損傷例から考察する。